

平成30年度 第1回 大井川水系流域委員会 議事要旨

■開催日時・場所

日 時：平成30年8月6日（月） 10:55～11:40

場 所：静岡労政会館 5階

1. 開会

2. 挨拶

3. 議事

(1) 大井川水系流域委員会規約について

- ・ 本規約の内容について、了承された。

(2) 大井川水系流域委員会委員長及び副委員長の選出

- ・ 委員の互選により、委員長は土屋委員、副委員長は戸田委員が選出された。

(3) 大井川水系河川整備計画の点検について

①大井川水系河川整備計画の点検の流れ

- ・ 質疑なし

②大井川水系河川整備計画の概要

頂いた主な意見は下記のとおり

- ・ 大井川では下流での水利用が多く、また、河川整備計画では水収支が明らかになっていないため、渇水問題に対し河川水、表流水、地下水等の水収支の解明や伏流水の魚類など環境面へ与える影響についても取り組んで頂きたい。
- ・ 大井川河口の貴重種の中で「ミミズハゼ」と表記しているが、今後は「ユウスイミミズハゼ」に統一すべきである。
- ・ 自然環境について「河口付近は静岡県のレッドデータブックにおいて『今守りたい大切な自然』に選定されている」とあるが、本年刊行予定の2018年版では、同項目がなくなるため、ここに書く場合は、「2004年版」と記載するべきである。
- ・ 河川整備計画において神座地点で50年に1度経験する流量とは、どういう基準でいつ決めたものなのか。最近のように非常に雨が多く降るようになると、想定する基準も変わるのではないか。
- ・ 地球温暖化の影響等で、現在の気象条件での1/100規模の雨の発生頻度が2100年頃には2倍ほどの頻度になるような指摘もある。これらをどのようにシステマティックに取り込むかはこれからの課題である。
- ・ 今後はソフト対策にも重点を置く必要があると感じている。

- ・ 整備内容に「良好な水質の維持」と書かれているが、平常時でも濁水の発生が見られる。濁水は、環境・観光面や魚の増殖の取り組みに悪影響を与えていることから、白濁の長期化対策に意識を向けて欲しい。
- ・ 自然環境にウグイの記載があるが、濁水の影響なのか特に中流域では近年大井川でウグイを見ていない。

(4) その他

- ・ 質疑なし

4. 閉会

以上